

葬儀は親しい人、大切な人を偲び永遠のお別れをする厳粛な儀式。だからこそ守らなければならないマナーがあります。宗教や宗派、地域の慣習などで細やかな形式は違いますが、せめて故人を哀悼する心が伝わるよう基本のマナーは身に着けていたいものです。

焼香・玉串奉奠・献花の作法

焼香の回数は宗派によって異なりますが、一般に浄土真宗本願寺派は額にただかずに1回、真言宗は3回、天台宗・日蓮宗は1回もしくは3回、浄土宗は1〜3回、曹洞宗・真宗大谷派2回、臨済宗は1回です。会葬者の場合は回数にこだわることなく、心を込めておこなえばいいでしょう。

焼香（仏式）の場合



1 霊前の祭壇少し手前で、僧侶と遺族に一礼します。

2 祭壇の前で両手に数珠をかけて一礼し合掌します。
※浄土真宗は合掌せず、香を額にただかずに焼香します。

3 抹香を親指、人差し指、中指でほんの少しつまみ、額にいただきます。

4 そのまま静かに抹香を香炉にいれます。

5 焼香が終わったら合掌し、祭壇に一礼します。前向きのまま祭壇前からさがり、僧侶・遺族に一礼して席に戻ります。



玉串奉奠（神式）の場合

1 玉串（榊の枝）はまず左の手のひらを上に向けて葉の方を受け取り、右手を枝の部分にかぶせるようにして持ちます。

2 玉串台の前にきたら軽くおしいたゞき、玉串を時計回りに90度まわして正面に構えます。

3 左手を根元に、右手を葉の方に移し替え、時計回りに180度まわします。



4 左手を葉先に移し両手で玉串台に供えます。

5 二礼二拍手（このとき拍手は音をたてない）のあと一礼します。終わったら祭壇を向いたまま3歩さがり、体を神職・遺族の方向向け一礼します。

献花（キリスト教式）の場合

1 花は右手を上、左手を下に向けて受け取ります。

2 神父または牧師、遺族に一礼して霊前に進み、茎が祭壇の方向に向くようにして静かに花を献花台に捧げます。

3 祭壇に向かったまま2、3歩さがり、手を組みあわせて数秒間黙祷したのち一礼し、神父または牧師、遺族に一礼します。

